

平成21年度「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」成果報告書

|     |              |            |                           |
|-----|--------------|------------|---------------------------|
| 事業名 | 美味しい弁当を作ろう   |            |                           |
| 法人名 | 学校法人 大館ホテヤ学園 |            |                           |
| 学校名 | 大館調理師専門学校    |            |                           |
| 代表者 | 布袋屋 伊作       | 担当者<br>連絡先 | 布袋屋幸穂<br>TEL 0186-43-4225 |

1. 事業の概要等

経緯・背景

本事業は秋田県の北に位置する大館市の調理師専門学校が行った。少子が進む土地柄であるが、人口は老人が占める割合が多い地域である。

特徴

講座は二種類に分けられており、給食のお世話になっている中学生に自分で昼のお弁当を作ってみようという事で2校で3回の実習を行った。事前に家庭科の時間に担当者が実際に講義という形式で授業をおこない、生徒と話をしながらメニューを作成を行った。

(実習時間 3時間 講義式の授業 3校各1時間)

もう一つは高校生と一緒に老人や障害者に弁当を作って配布する事である。

大館市社会福祉協議会の人に来ていただいて大館市の福祉の現状などの話を聞く。調理実習をするという講座を行った。

(実習時間 1回 4時間 講話 各1時間づつ)

事業の実施

事業にあたり、大館市教育委員会に中学校の選択をお願いし、中学校と高等学校との連携・実習・授業・アンケートなどのまとめや各学校への連絡は本校で担当。大館市社会福祉協議会の方々には、福祉についての講義・福祉弁当を食べていただける人の情報を提供・実際の福祉弁当を配送するボランティアの人たちへのお願いを担当。介護福祉士の方は、老人・障害者についての理解を深めるための講義。3回の実施委員会では実際の計画についての見直しなどの総括を担当。

事業の概要

開設講座数 : 美味しい弁当をつくろう (自分の昼食を作る・福祉弁当を作る)

参加高等学校数 : 2校

参加中学校数 : 2校

受講者数 : 151人

(内訳: 高3生30人・高2生30人・中3生60人・中2生31人)

## 2. 事業の実施に関する項目

### ①職業体験講座の実施

|   |           |  |                           |     |
|---|-----------|--|---------------------------|-----|
| 1 | 自分の昼食を作ろう | 自分の食べてる食について考え実際に年齢相当量の昼食(弁当)を調理実習の授業で作る | 平成21年9月25日                | 30人 |
| 2 | 福祉弁当を作る   | 地域の老人・障害者に福祉弁当という形で                      | 平成21年9月10日<br>平成21年9月17日  | 30人 |
| 3 | 自分の昼食を作ろう | 自分の食べてる食について考え実際に年齢相当量の昼食(弁当)を調理実習の授業で作る | 平成21年11月5日                | 30人 |
| 4 | 福祉弁当を作る   | 地域の老人・障害者に福祉弁当という形で                      | 平成21年11月5日<br>平成21年11月12日 | 30人 |
| 5 | 自分の昼食を作ろう | 自分の食べてる食について考え実際に年齢相当量の昼食(弁当)を調理実習の授業で作る | 平成22年2月26日                | 31人 |

### その他

「食」「働く」といった事について考えるような講話の時間を設けたり、1度食べてもらってからアンケートをとる事により喫食者のニーズに応えられるようにした。また、福祉事務所の方々より現在の大館市の福祉の現状を聞くことや実際にボランティアをしてくださっている方たちとのふれあいから生の声を聞き「生の福祉」を学ぶことが出来たように思う。

## 3. 事業の成果・評価に関する項目

### ①目的・重点事項の達成状況・評価について

受講（別紙に添えてある）

満足度調査結果：大変満足（80%）・満足（15%）普通（5%）

高校教員へのアンケート調査結果

満足度調査結果：大変満足（90%）・満足（10%）

これらの調査結果については3月9日に開催した第4回実施委員会において分析・検討を行った。

まず、「自分の昼食をつくる」では地方都市のためか割合に自分の家で食事を作り食べるのが当たり前のようであり、食事を作ってくれる母親・祖母への感謝と関心がたかまったように思う。そして、食べなれているためか煮物が好まれ、出来れば食事のときは

お茶でなく汁物が欲しいという事であった。「福祉弁当」のほうは、始めに実習を行った情報学院の生徒が調理経験がなく、予想より時間を費やした。喫食者のアンケートの結果をみてびっくりした、まさに若者の好むメニューであった。もう少し、深く掘り下げるため聞き取り調査を一部の人についておこなった結果。食事については「買い物」「あとかたづけ」「つくる」が大変な事の大部分を占めるため、「普段食べたいと思ってるもの」「日持ちのするもの」「買ってこなければ食べられないもの（揚げ物など）」がアンケートに上がってきたようである。

「福祉弁当」については実際に高校生にメニューを考えて貰いたかったが、授業時間の関係でままならなかった。普通高校においてはそれぞれの校長先生の判断での参加・不参加が決まるので参加校を得るのに苦労した。

## ②次年度以降における課題・展開

「自分の昼食をつくる」の中学校においては学校をあげての参加とりかいをしていただき大変助かった。「福祉弁当」においては普通高校の授業の事がありなかなか参加していただける学校を探すのが難しかった。次年度においては「福祉弁当」の需要と要望から続けたいと思う。